

徳川みらい学会第5回講演会



「家康公の大御所政治と久能山」

静岡大学名誉教授 本多隆成氏



徳川みらい学会の第5回講演会を12月12日(木)、静岡市民文化会館で開催しました。講師は静岡大学名誉教授の本多隆成氏。家康公が「豊臣公儀」に代わり「徳川公儀」をいかに確立したのかについてを主に語っていただきました。

要旨は次のとおりです。

将軍から大御所へ

家康公は将軍職をわずか2年で譲るのですが、これは徳川氏が将軍として政権を世襲すること、天下に知らしめたものでした。こうすることでいざいざ豊臣秀頼が関白として再び政権を担うだろうという豊臣方の期待を打ち砕いていきました。

大御所政治の諸政策

大御所政治では、「徳川公儀」を実質化していく為に、4つの大名政策を実施しました。①築城の際のいわゆる土木工事を課した「御手伝普請(おてつだいぶんしん)」や、②各村の石高が記されている「御国家的土地台帳ともいえる「御前帳(ごぜんちょう)」や「国絵図」の徴収、③二条城で豊臣秀頼を引見、④大名に対し起請文を上げさせる事を行いました。

対朝廷関係としては、公家衆

と天皇の女房衆との「宮女密通事件」が起こり、その処分を朝廷ではなくて家康公が主導で行いました。この結果、朝廷の権限が大きくそがれることになりました。

対外関係でも、ウィリアム・アダムスやヤン・ヨーステンの外交顧問としての起用や朱印船貿易を開始し、交易は駿府政権のもとで始めました。

家康公の遺言と久能山

死期が近い事を悟った家康公は本多正純や天海、崇伝の3人を呼び、自らの死後の対応を指示しました。遺体は久能山に納め、葬儀は江戸の増上寺、位牌は三河大樹寺に立てることとし、そして一周忌を過ぎたら下野日光山に勧請せよというものでした。その後家康公の神号をめぐって、天海の「権現」案と、崇伝の「大明神」案で論争がありました。本来であれば家康公は久能山で吉田神

道的方式で葬られていることから「大明神」になるだろうと考えられていましたが、天海の主張が通り、結果、家康公は東照大権現となりました。その後、下野日光東照社の造営がなされ、「東照宮」と称されるようになってからは、勅使(日光例幣使)が毎年4月に派遣されることになりました。



個人・法人会員を随時募集しています。皆さまのご入会をお待ちしております。

〈問い合わせ〉徳川みらい学会事務局 〈TEL〉 284-9660 〈HP〉 [徳川みらい学会](#) [検索](#)